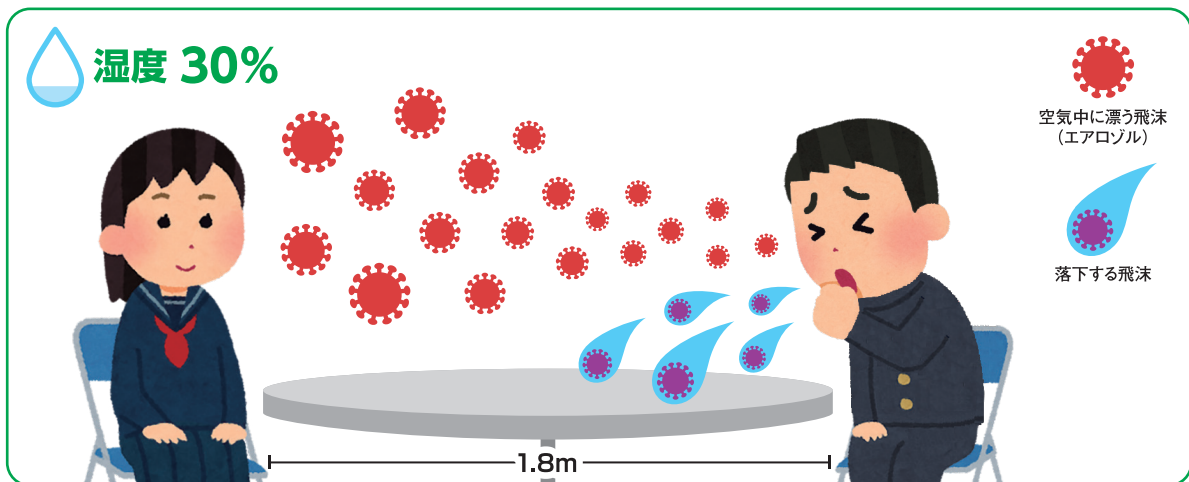


# 新型コロナウイルスに関する情報《湿度編》

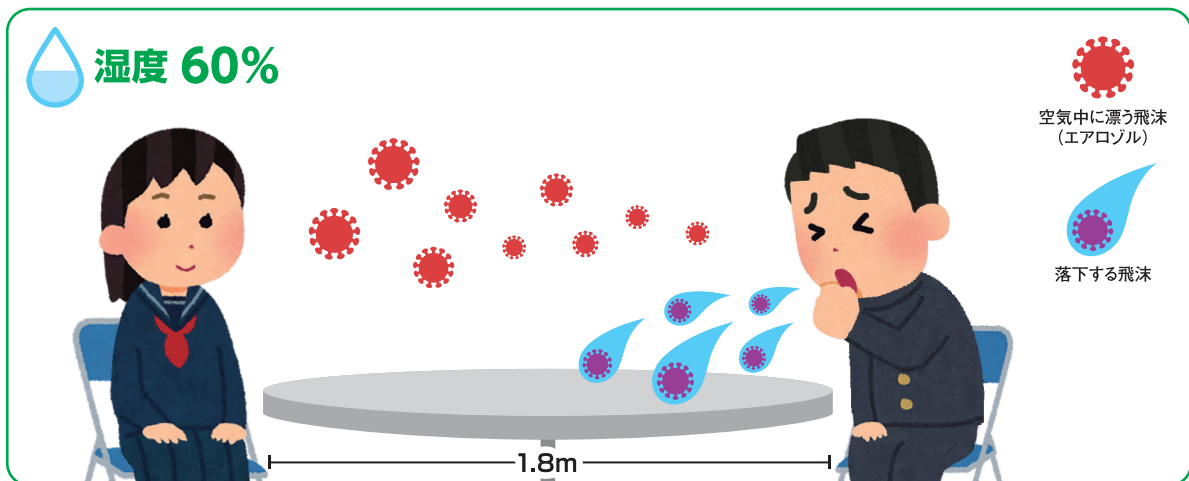
## 冬場における室内の湿度

室内の乾燥が気になる季節。会話や咳、くしゃみの時の飛沫は部屋が乾燥していると拡散しやすいようです。そこで、前回の「換気」に続いて、今回は「理化学研究所スーパーコンピュータ富岳・室内環境におけるウイルス飛沫感染の予測とその対策」プロジェクトチームが、2020年10月13日に公表した研究データに基づく「飛沫飛散における湿度の影響」のシミュレーション測定値を掲載することといたしました。室内湿度の目安にしていいただければ幸いです。

●**実験** ※イラストはイメージです。飛沫の中に必ずしもウイルスが含まれている訳ではありません。  
2人が1.8メートルの距離をとって向かい合って座り、一方が咳をした場合。



●飛沫全体 (  +  ) の**6%近く**が正面の人に到達



●到達が**2%前後**に減少

### ●空気中に漂う飛沫について

湿度が30%になると室内が乾燥し、飛沫が急速にエアロゾル化して拡散。1.8m先の正面に届く飛沫の量は、湿度60%の室内と比べ2倍以上になります。加湿器等による湿度のコントロールで「適切な湿度を保つ」ことが有効です。

### ●落下する飛沫について

湿度の高い環境では飛沫が乾燥しにくくなり「エアロゾルが減る」一方、「机などに落ちる飛沫が増え」、接触による感染リスクが高まることから、手が触れるところをアルコールで拭く、手洗いをするとといった対策も肝要になります。